



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲(日本YMCA同盟)

リソース・モビリゼーション・ワークショップ(日本)報告

Eloisa Dukha Borreo



アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)は、リソース・モビリゼーション・ワークショップを日本の2つのYMCA(広島、横浜)にて行いました。日本にはリソース・モビリゼーションについてあまりなじみがなかったため、APAYはプログラムの概要と原則的な説明を行いました。すでに他の国のセッションでも述べられているように、リソース・モビリゼーションとは、YMCAが働きを担っているコミュニティにおいて、YMCAの新たなイメージの構築を実現するために用いられる手法です。つまり、すでに各コミュニティで行われているような、人々とコミュニティとの関係の構築と、YMCAの目指す目的のために寄付やシェアの精神を広め、さらに強めることなのです。APAYに加盟する8~10か国のYMCAにこのプログラムを紹介するという目標を達成するため、APAYは世界大都市YMCA会議(World Urban Network)および北アメリカ開発機構(NAYDO)による支援やサポートを依頼しました。Ron Coulombe氏がアジアの各国のYMCAをサポートするボランティア・コンサルタントをリクルートし、現在、北米からの7人のボランティア・コンサルタントがいます。ボランティア・コンサルタントたちは、彼らの所属するそれぞれ

のYMCAでうまくいったコンセプトや原理・原則について話し、参加者には、それぞれのYMCAでうまくいきそうな方法のみを選択するように伝えました。アジア・太平洋地域のYMCAで何が役に立つのか、その答えは残念ながらコンサルタントにも見出せるものではありません。彼らは、北米のYMCAで開発され、30年以上にわたり成功を収めている「成功のモデル(秘訣)」をもとに、プログラムやケース(寄付を募るための事例)について報告しました。

まず、西日本のYMCA対象の研修が2013年7月4日~7日に広島YMCAにて行われました。京都、



和歌山、せとうち、広島、熊本の5つのYMCAからの参加者がありました。プログラムのスケジュールは過去に他の国で行われたセッションとは異なるものでした。日本では、27人のYMCAのリーダー(指導者)やスタッフのために、オリエンテーションが行われました。オリエンテーションでは、ワークショップの概要、望まれる成果、リソース・モビリゼーションを行う理由や、リソース・モビリゼーションの原理・原則とフィランソロピーの精神の涵養等について話されました。その後、質疑応答が行われ、このプログラムの課題について話し合われました。また、参加者の中には部分的にワークショップに参加した方もいました。2日目からのセッションには18人が参加し、チーフ・ボランティア・コンサルタントのRon Coulombe氏とアメリカ・テキサス州オースティンYMCAのJim Pacey氏が進行役を務めました。リソース・モビリゼーションの原則や原理について学び、理解した後、それぞれのY

MCAのケース(寄付を募るための事例)について考え、どのように寄付を呼びかければよいか実践演習を行いました。参加したすべてのYMCAの目標金額の合計が3280万円に設定され、ワークショップ中にも55万4,000円の寄付の申し出がありました。広島でのワークショップの後、熊本、せとうち、大阪を訪れ、各YMCAの指導者対象オリエンテーション・セッションが行われました。



東日本のYMCAに対しては、7月12日～14日、横浜YMCAにて行われました。茨城、盛岡、とちぎ、大阪、埼玉、横浜の6つのYMCAから32人が参加し、日本YMCA同盟総主事の島田茂氏ら同盟からも参加がありました。初日の7月12日は、西日本と同様のフォーマットおよびプロセスでオリエンテーションが行われました。進行役は、Ron Coulombe氏と、アメリカ・サンフランシスコYMCAのGrace Reddy氏でした。重要なことは、原理・原則、学び、ケースの開発、YMCAの内部と外部で寄付者になりうる人を見出すこと、YMCAの働きを支援したいと考え、深く関与する人々の輪を大きくすることであると学びました。その後、寄付の呼びかけ方の実践演習を行い、3500万円と目標金額が設定されました。ワークショップ中に寄付が申し出られたのは124万3000円です。それぞれのYMCAのリーダー(指導者)と担当者が決められました。Ron氏とGrace氏は、盛岡YMCA、宮古ボランティアセンター、とちぎYMCAと日本YMCA同盟を訪れ、フォローアップ・プレゼンテーションを行い、それぞれのYMCAの指導者やスタッフとさらに交流をしました。日本のコーディネーターは、日本YMCA同盟スタッフの田尻忠邦氏と山根一毅氏です。

APAY ソーシャル・エコノミー研修

Duncan Chowdhury

APAY 主催ソーシャル・エコノミーに関するワークショップが2013年6月27日～30日、韓国・ソウルにて開催されました。韓国YMCA連盟がこのワークショップを主管し、アジア・太平洋地域のさまざまな国のYMCAから8人の参加がありました。ワークショップはAPAY副会長のSong In Dong博士の挨拶によって始められ、韓国YMCA連盟会長Ahn Jae Woong博士および同総主事Nam Boo Won氏が参加者を温かく歓迎しました。前APAY会長のPark Jai Chang博士とAPAY総主事の山田公平氏が開会式でスピーチを行いました。

開会式では登壇者より、なぜYMCAがソーシャル・エコノミーに関与するのか、その根拠について説明がなされました。第二次世界大戦直後、貧困が主要なグローバル・イシュー(地球規模問題)となり、さまざまな貧困削減プログラムが政府や市民社会によって行われ、貧しい人々の生活改善が目指されてきました。しかしながら、これらのプログラムは人々の願いをかなえることができず、みじめにもことごとく失敗し、富める者と貧しい者の差はより一層広がってしまいました。正規に雇用されていない若者が増加傾向にあることも、社会に大きな影響を与えています。YMCAもこれまでさまざまな貧困削減プログラムに関与しており、貧困の問題を解決するため、あらゆる方法や手段を調査しています。多くの人々の生活を豊かにするような代替アプローチに関する調査も行われています。韓国のYMCAは、とりわけ草の根の人々を経済的に解放することを目指した協同組合事業(Cooperatives)において、さまざまな社会的企業を紹介するパイオニアとして一翼を担っています。これらの経済モデルの成功事例は、多くのYMCAが人々の経済的解放の効果的なツールとして、YMCAの内部にさまざまな社会的企業を立ち上げるよう、刺激を与えました。

ワークショップの基調講演は、韓国農村社会研究所(Korean Institute for Study of Rural Societies)副会長のKwon Young-Geun氏が行いました。講演のテーマは「ソーシャル・エコノミーの組織、現状と期待(Association, the

current movement and prospect of social economy)」でした。パネル・プレゼンテーションのテーマと登壇者は、



(1)「社会的企業促進法、生活協同組合法の制度改革」(韓国社会的企業促進機構 インフラストラクチャー編成本部長 Choi Hyuk-Jin 氏)、(2)「ソーシャル・エコノミー活動の地方自治体の潮流」(ソウル・マウル地区サポート・センター社長 Yoo Chang-Bok 氏)、(3)「韓国の消費者協同組合活動の流入」(iCoop Institute 所長 Kim Hyung-Mi 氏)、(4)「自営業、生活協同組合と社会的企業の流入」(キョンギ自営センター所長 Lee Byung-Hak 氏)でした。

ワークショップ期間中、参加者はウォンジュにある協同ソーシャル・エコノミー・ネットワークを訪れる機会があり、他にもフィールドワークでは市内のさまざまな社会的企業を訪問しました。高校、保育園、社会的企業村の他、韓国YMCA連盟の社会的企業プログラムで最も重要なカフェ・ティモール、ピース・コーヒー・プロジェクトについても学びました。

参加者はまた、社会的企業に関するYMCAの取り組みについてもさらに学びました。富川(プチョン)YMCA 総主事 Kim Ki-Hyun 氏からは、Lighthouse Consumer Cooperatives に関して



報告されました。大邱(テグ)YMCA総主事 Kim Kyung-Min 氏からは「ホープ・バイク・プロダクション」という自転車による環境保護や自転車のリサイクルを行う運動について報告され、装飾をした自転車や自転車劇場といった試みによって、市内ではサイクリングの人気の高まったとのことでした。彼

はまた、ほぼすべての工程を地域住民による手作業で、人々のための公園をつくった経験についても報告しました。その公園は多様な生物の生息地となり、市内でも魅力的な場所となっています。

九里(クリ)YMCA総主事の Lee Jeong-Hee 氏は、韓国の経済危機を乗り越え、人々の経済的福祉を目指すため、YMCAが協同組合を設立し、雇用を創出した経験について語りました。

オーストラリア・ビクトリアYMCA総主事の Peter Burns 氏からは、ビクトリアYMCAでの社会的企業の試みである「ブリッジ・プロジェクト」という、刑務所での服役を終えたユースをエンパワーするための就労支援プログラムについて報告がなされました。また、社会的企業の一例である「プロジェクト PRISM」も、オーストラリアの子どもたちを脅かす水難事故・溺死の危険から守るため、何千人もの子どもたちに水泳を教えることを目的としています。

最終日には、YMCAに適応可能な社会的企業の効果的な働き方の定義づけを行い、人々に役立つYMCAの社会的企業を育む効果的な方策についても考えました。

APAY は、このワークショップを受け入れてくださった韓国YMCA連盟に感謝の意を表するとともに、アジア・太平洋地域のYMCAが今後も社会的企業に関与し続けることを強く望みます。

総主事デスクより・・・
 APAY グリーン・チャレンジ 2013(10月18～30日)
 環境への意識が個人そしてYMCA・ワイズの核心になるように
 YMCAとワイズの協働活動としての試み

アジア・太平洋YMCA同盟総主事
 山田公平



世界には3万人近くのワイズメンがいます。そのうち3分の2はアジア各国にいます。韓国に5,500人、インドに9,500人、そしてその他のアジアに4,100人がいます。さらにAPAYのメンバーであるオーストラリアに230人います。アジア太平洋地域だけで、1,600ものワイズメンズクラブが存在し、一方同地域に12,000ものYMCAが存在してい

ます。そして、ワイズの大切な目標の一つにYMCAと共にパートナーとして地域に貢献するというものがあります。

数年前、世界YMCA同盟と国際ワイズメンズクラブがパートナーシップ関係を締結しました。特に若者を育成する上でもっと協力関係を強めたいという願いがその中にあります。APAY は今この地域にあるワイズに働きかけ一緒に行動を始めませんかと呼びかけています。まずはお膝元のアジアエリアのワイズに声をかけています。

今年の10月に行おうとしているユースによる環境への取り組みキャンペーンと一緒にやりませんかという呼びかけです。10月18日から30日までの期間に一日でもいいから何か環境に関わるイベントをしようというグリーン・チャレンジ活動です。これをYMCAの若者とワイズが協働でできたら双方にとって大きな前進となるでしょう。まさにテーマ“Green to the Core”（環境への意識が個人そしてYMCA・ワイズの核心になるように）というキャンペーンです。アジア地域でとりむくことが世界に意識を広げるきっかけになるのではないのでしょうか。

昨年10月13日に世界YMCA同盟主催でワールド・チャレンジを行いました。バスケットのシュートを世界中で同じ日に何人ができるかにチャレンジするものです。記録では世界86カ国から432,123人が参加しました。アジア太平洋地域だけでも16カ国288,000人が参加しました。今年は若者を中心に環境問題に取り組む活動を一齐にやってみましょうというねらいです。そこにワイズの人たちも一緒にパートナーとして加わりましょうと声をかけています。一緒に何をするかを考え、一緒に計画し、実行し、そして一緒にその成果を分かち合っ、全体でどれだけできたかを見てみましょう。この活動を写真やビデオで収め、コンテストをしてみるのも考えています。

これがはじめての試みになりますが、うまくいけば、来年6月6日に予定されている世界YMCA同盟主催のワールド・チャレンジと一緒に挑戦することができます。そしてYMCAとワイズの絆がさらに強まることになるでしょう。

これが多くのところでうまくいくことを願っています。まず最初の一步ですが、これによりワイズとYMCAのパートナーシップが強まること、そしてより多くの人たちが、YMCAやワイズが、環境への意識をより高めるきっかけになることを祈っています。

マレーシアYMCA同盟

Ng Yee Khai 氏を名誉主事代理に任命



Ng Yee Khai 氏が、6月22日に行われたマレーシアYMCA同盟年次総会にて、名誉主事代理に任命されました。

Yee Khai 氏は、クアラルンプールYMCAでとりわけユース開発プログラムで熱心に活動する会員です。2008年からマレーシアYMCA同盟常務委員を務め、2010年から2012年にかけて、マレーシアYMCA同盟のユース委員長でした。2007年から2011年には、APAYのユース委員でもありました。その他、マレーシアのYMCAを代表してさまざまな国際プログラムや会議にも出席しています。2011年から2015年の任期で、APAYの理事の立場も担っています。

Ng Yee Khai 氏のご成功をお祈り申し上げます。

ニュージーランドYMCA同盟

Paul Donald Le Gros 氏を会長に任命

Paul Donald Le Gros 氏が、2013年6月8日に行われたニュージーランドYMCA同盟の総会で、ニュージーランドYMCA同盟の会長に任命されました。かつて、1990年から1996年には、ニュージーランドYMCA理事長として奉仕されていました。1978年からネルソンYMCAの会長を務めています。



1988年から1996年まで、アジアYMCA同盟の常務委員であり、2007年から2011年まではAPAYの副会長でした。1985年から1988年と、1991年から1998年までの2期、世界YMCA同盟の常務委員でもありました。

Le Gros 氏は法定弁護士であり、1974年から2011年にかけてニュージーランド最高裁判所の法務官でした。

Le Gros 氏の会長就任をお祝い申し上げます。

香港中華YMCA Uni-Y College-Y
国際ユース・カンファレンス開催

Uni-YとCollege Yの10周年を記念して、香港中華YMCAは2013年7月19日から24日、Uni-Y College Yユース・カンファレンス:「リンク・エージ(Link-Age)」を開催しました。開会式 兼 Uni-Y College Y同盟発足式は、APAY会長Yau Chung Wan氏、香港中華YMCA会長 Cecil Chan 博士、Uni-Y College Y委員会委員長Arnold Cheng博士によって司式され、YMCA役員や香港内外から170人が出席しました。

このカンファレンス「リンク・エージ」のねらいは、個人やコミュニティのつながりをより強化することで、同じような考え・趣味等を持つ若者を結び付け、真の文化交流を通して無限大の世界をつくることでした。スピーチ、フィールドワーク、フォーラム、ワークショップ、ソーシャル・サービス、市内観光、カルチュラル・ナイト等さまざまなアクティビティを通して、他人と密接で友好的な関係を維持するには何が重要か、参加者がより理解を深め、他のYMCAからの参加者とより強い絆を強めることができました。

香港浸会大学 社会学部 Ruan Danching(阮丹青)副教授が、このカンファレンスの基調講演者でした。彼女は講演で、さまざまなタイプの関係性について明確に示し、社会のよい働きに貢献するためにどのようにその強い絆を活用したらよいか話しました。また、香港浸会大学 コミュニケーション学部 Oh Hyun Jee(吳炫枝)助理教授、香港大学 社会科学部 副学部長 Eric Chui(崔永康)博士がカンファレンスのゲスト・スピーカーとして招かれました。カンファレンスの最後には、参加国同士のつながりを強め、さまざまな国のYMCAから来た参加者同士の関係をさらに深めるために、協働プロジェクトやアクション・プランを企画しました。



ユース参画リーダーシップ開発委員会より
アジア・太平洋地域のチェンジ・エージェント紹介

私たちはYMCAの仲間です！

Fay Cheng(マカオ)

マカオYMCAは、6月16日にY-Sportというイベントを行いました。このイベントの目的は、YMCAのメンバー・会員を結び付けることでした。「選手」は私たちのYMCAのさまざまな部署—スクール・カウンセリング部門、ユース・コミュニティセンター、短期寮—の参加者やスタッフです。

Y-Sportのイベントはすべてユースによって運営されました。私たちはいつもスタッフが主導となって行うプログラムに参加することに慣れていますが、今回イベント運営について学び、本当にエンパワーされたと感じました。熱が入ったバスケットボールの試合の他、ドッジボールや走り幅跳びの試合を行いました。参加者の笑顔を見て、賞だけでなくYMCAで友情や絆も得ることができたことに満足しています。Y-SportはYMCAの「家族」を結び付けるよい機会となり、また、スタッフやメンバーの全員に頻りに会うことがなくても、私たちは全員YMCAにいるということを実感する機会となりました。



チェンジ・エージェントとしての私の役割

Alicia Crawford(オーストラリア)

私は、アドベンチャー・キャンプのリーダー、リーダーシップ・プログラムのファシリテーター、ユース・リーダーシップ開発ユニットのボランティアとして、オーストラリア・ビクトリアYMCAに12年以上かかわっています。また、短期間ではありますが、YMCAが移民や難民の若者対象のユース・スポーツ・プログラムを運営するコミュニティ・センターで働いたこともあります。

多くの若者とともに働いてきた経験から、若者が気にかけていることや変化を起こしたいと考えている問題に関しては、若者たちとともに取り組む必要があると気づきました。なぜなら、かわりは本物でなくてはならず、また内から出るも

のなくてはならないからです。私にとってリーダーシップとは、内なる強さのことを示し、何をするか、どのように人生を生きるかについて誠実さ(integrity)を示すものです。リーダーとは、他の人がその人のそばにいたいと思える人のことを指し、リーダーの力量によって人々は安全で、支えられ、特別で、自分に価値があると感じることができるのです。リーダーは力強いビジョンを持つべきで、そのビジョンをしっかりと伝えるべきです。そうすれば、他の人がそのリーダーとともに働きをなすことを選択するのです。

YMCAチェンジ・エージェントの役割は、各YMCA、各国YMCAの内部に地球市民というコンセプトを広める(champion)すること、ユース・エンパワーメントへと導くためYMCAのミッションの認知度や役割を増すよう、各国レベルや国際的なレベルで働きをすすめることであると、私は理解しています。また、ユース・エンパワーメントこそが、私たちYMCAが社会をよい方向に変えるため、世界規模でできる最も重要なことであると信じています。このことについて、さらに効果的なプロセスにするためには、若者がアクションを起こすことにかかわれるよう、スキルを伸ばすのと同時に経験を与える必要があり、その経験を通して、自ら成長し、継続的に自分を省みること、大きく自己変革する機会を補償する必要があるのです。



プラハでTシャツ交換

Alvin Kan(香港)

2013年8月4日~10日、チェコ・プラハ行われたYMCAヨーロッパ・フェスティバルには、アジア・太平洋地域から29人のチェンジ・エージェントが参加しました。世界中から集まった仲間とTシャツ交換をしました。



もうすぐ、インド!

Betsy Williams (インド)

この夏のもうひとつのお楽しみまで、待ちきれません。もしイエラギリ・ヒルの美しい自然をトレッキングするのに満足できなかったら、インドのマスターからヨガを習いましょう。キャンプファイヤーでも満足できなかったら、プロのダンサーからボリウッド・ダンスを習いましょう。インドの多様性と友情は素晴らしい経験となること間違いなしです!

APAYは、2013年8月23日~28日、インド・イエラギリ・キャンプで、ユース・カンファレンス2013を開催します。



ユースを変革し、コミュニティーを変革する

Roger Peiris

2013年7月10日~13日、バングラデシュYMCAユース・カンファレンスがネトロコナ・ドゥガルプルのビリシリYMCAにて開催されました。バングラデシュ内の12YMCAからの参加者に加え、韓国のラオナッティ(Raon Atti)プログラム参加者、バングラデシュ・エキュメニカル運動のメンバーが集い、45人のユースが参加しました。カンファレンスでは、人生の運動や経験、世界を変えること、ユースの役割、よい組織運営の要素とインパクト、グローバリゼーションの概念の理解、ジェンダー公正、ユース・エンパワーメントのセッションが行われました。

このユース・カンファレンスは、バングラデシュのYMCAにおいて、人々のニーズに奉仕するというYMCAのビジョンやミッションについて深く理解することを通して、ユースを活発な会員として育てるツールとなっています。

YMCAが世界規模の国際的なユースの運動であることを示すため、参加者は全員それぞれの場に帰った後も、YMCAとつながり続け、各YMCAとバングラデシュ全土のYMCAとの密接な関係を維持しています。



APAY ユース・フォー・ユース賞

APAY は、「フェロー・フォー・ユース」の枠組みの中で、合計 300USドルを寄付した 30 歳以下のユースに新たに「ユース・フォー・ユース」賞を授与することを決定しました。ファンドライズをしても、ユース自ら寄付をしてもかまいませんので、APAY のユース・ファンド宛に送ってください。目標は、意義ある行動を通してローカル・コミュニティーに関する問題に対応すること、ユースをエンパワーすることなどです。



発行元

アジア・太平洋YMCA同盟

Asia and Pacific Alliance of YMCAs

23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong

tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692

e-mail: office@asiapacificymca.org